2020 年 7 月 29 日

プレスリリース
報道機関各位

第 27 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜 <リアルにふれる> をテーマに 8 月 7 日（金）から 9 日(日)にオンライン開催

国内におけるエイズ患者と HIV 感染者数のうち、2018 年に新たに判明した HIV 感染者の報告数は 940 件、新規エイズ患者は 377 件で、合わせた新規報告数は 1,317 件となりました。2018 年度末の累積報告件数は、HIV 感染者 20,836 件、エイズ患者 9,313 件で、計 30,149 件となりました。年齢別では、HIV 感染者は 25 歳から 29 歳が最も多く、エイズ患者では、45 歳から 49 歳に多くみられます。全国的にみても神奈川県の割合は高く、HIV 感染者は、東京都、大阪府、愛知県に、エイズ患者は、東京都、大阪府、福岡県に次いで 4 番目に多くなっています。（添付資料参照）

こうした状況の中、市民の立場からエイズについて幅広い視点から考える「AIDS 文化フォーラム in 横浜」（同組織委員会主催、神奈川県共催、横浜市健康福祉局、川崎市、相模原市、横須賀市、藤沢市、横浜商工会議所、神奈川県教育委員会、公益財団法人エイズ予防財団後援、横浜 YMCA 事務局）は、第 27 回目を迎え、8 月 7 日(金)から 9 日(日)の 3 日間において、コロナウイルス禍にあるため、オンライン(Zoom ウェビナー)にて開催することになりました。

このフォーラムは、1994 年に横浜で第 10 回国際エイズ会議が開かれたのをきっかけに、「市民に開かれた会議を市民の手で」を基本コンセプトとして、横浜商工会議所、青年会議所、横浜 YWCA、横浜 YMCA などの民間団体による組織委員会が主催者となり、第 1 回フォーラムを神奈川県の共催、横浜市などの後援により開催しました。以降、毎年 8 月に開催しています。
昨年の第 26 回のフォーラムには、高校生や大学生、学校教師、医療関係者など延べ 4,347 人が全国から参加し「<話す>と<リアル>に!!」をテーマに、当時者と話すことが大切であるという実体験を語り合いました。

毎年、エイズにおける教育や予防、治療や支援の現場、感染者や患者の当事者など幅広い領域からの情報を得ることのできる貴重な機会として、全国から多くの教育関係者、医療関係者、市民活動ボランティアなどが参加しています。

<リアルにふれる> 一人ひとり大切なことを探してみよう!

エイズ（後天性免疫不全症候群　Acquired Immune Deficiency Syndrome; AIDS）は、1981 年に世界で初めての症例が報告され、わずか 10 年程度で感染者は世界中に 100 万人にまで広がりました。薬剤の研究開発が進み、先進国では HIV に感染してもエイズの発症を抑えることができるようになり、感染者・患者を取り巻く環境も変化してきました。一方で、感染者が減少しない状況や HIV を抱えて生きるための環境整備など、新たな課題が出ています。

第 27 回目を迎えた今年のフォーラムでは、<リアルふれる> 一人ひとり大切なことを探してみよう!というテーマを掲げています。

誰でも、「病気になりたくない」「つらい思いをしたくない」「命を落としたくない」などさまざまな思いがあります。どのような状況にあっても「たいせつなことに気付くことができれば、今を、明日を生き続けることができるのではないかと、共に「大切なこと」を考えていく機会としています。

今年は全国とオンラインでつながる

新型コロナウイルス禍にあり、同組織委員会では開催の方法についての検討がなされ、オンライン開催にチャレンジすることになりました。参加希望者には、AIDS 文化フォーラム in 横浜のホームページ・オンラインフォームにてオンライン登録の受付を 8 月 3 日まで行っています。オンライン(Zoom ウェビナー、Zoom ミーティング)での参加となります。プログラムによっては、YouTube を利用しての視聴も行います。

オープニングでは、感染症に振り回される日本を共に考える

8 月 7 日(金)10 時からのオープニングトークセッションでは、「相変わらず感染症に振り回される日本」～「いいエイズ、悪いエイズ」に学べず「いいコロナ、悪いコロナ」に!?!～をテーマとして共に考える機会とします。情報がなかなか入手できなかった時代と同じく、情報がふんだんに入手できる時代でも偏見や誤解、差別が横行するのはなぜ?「正しい知識」が得られない背景を考えます。加藤力也(HIV 陽性当事者)、宮田一雄(元記者)、宮崎豊久(ネットスター株式会社)、岩室紳也(運営委員)がそれぞれの立場から考えていきます。

トークセッション　「宗教と AIDS」看取りを考える

8月8日(土)16時30分からは、「宗教とAIDS　看取りを考える」～あらためて一人ひとりの生老病死とは～をテーマに、HIV/AIDSでは、同性婚が認められないがために、新型コロナウイルスでは、感染リスクを理由に看取りがかなわない人たちが続出しています。平良愛香(牧師)、安食真城（僧侶)、山田圭吾(カトリック信徒)、古川潤哉(僧侶)、岩室紳也(運営委員)がそれぞれの立場や経験から看取りについて宗教やAIDSの視点から共に考えます。

講演会 水谷修さんに聞く、若者たちの今

『夜回り先生』の著者として知られる水谷修氏は、このフォーラムで毎年、若者たちをとりまく実態と若者たちの意識について講演を続けています。毎年、若者がもっと聞きたかったと好評の講座となっています。8 月 9 日（日）13 時 30 分からは、「水谷修さんに聞く、若者たちの今」をテーマに講演会が開催されます。新型コロナウイルスにより学校という居場所を長期にわたり失った全国の若者から寄せられた声を伺います。

Web で 17 講座、活動紹介 7 団体が参加

フォーラムでは、オンラインで 17 の講座が行われます。「感染症と差別と偏見」や、「AIDS 文化フォーラムを語ろうよ」、「小学校保護者への性教育講演を通して考えていること」など、エイズを通して、差別や偏見、性教育などについてリアルにふれて、共に考える機会とします。活動紹介団体は、7 団体あり、横浜 AIDS 市民活動センター(横浜 YMCA 運営受託)や、YMCA ACT、かながわ外国人すまいサポートセンターなどが参加し紹介を行います。

京都、陸前高田、佐賀、名古屋に広がった AIDS 文化フォーラム

1994 年に横浜ではじまった市民による AIDS 文化フォーラムは、2011 年より「AIDS 文化フォーラム in 京都」、2013 年から「AIDS 文化フォーラム in 陸前高田」、2016 年から「AIDS 文化フォーラム in 佐賀」、2017 年から「AIDS 文化フォーラム in 名古屋」として毎年開催されています。横浜ではじまった AIDS 文化フォーラムが全国に広がっています。

【第 27 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜 開催概要】

テーマ　「リアルにふれる 一人ひとり大切なことを探してみよう!」

期　間　2020 年 8 月 7 日（金）～9 日（日）3 日間
10 時～17 時 30 分　＊最終日は 16 時まで

開催場所　オンライン(Zoom)

参　加　自由／無料

主　催　AIDS 文化フォーラム in 横浜組織委員会
組織委員長：横浜 YMCA 総主事 佐竹　博
社会福祉法人 横浜いのちの電話
カトリック横浜教区
ワイズメンズクラブ国際協会東日本区湘南・沖縄部
公益財団法人 横浜 YMCA

共　催　　神奈川県

後　援　　横浜市健康福祉局、川崎市、相模原市、横須賀市、藤沢市、
横浜商工会議所、神奈川県教育委員会、公益財団法人エイズ予防財団

協賛　　ヴィーブヘルスケア株式会社、ジェクス株式会社

助成金　　公益財団法人エイズ予防財団（令和 2 年度エイズ予防財団助成事業）

事務局　　公益財団法人　横浜 YMCA
〒231-8458　横浜市中区常盤町 1-7
Tel 045-662-3721　Fax 045-651-0169
E-mail abf@yokohamaymca.or
https://www.yokohamaymca.org/AIDS/

組織委員会

神奈川県内でエイズに関わる課題に取り組む、民間団体の代表者で構成され、「AIDS 文化フォーラム in 横浜」を主催し、その社会的な責任を負います。

【参考資料】（添付）
1. 2018 年エイズ発生動向　概要（厚生労働省エイズ動向委員会）
2. 第 27 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜　ちらし

この件に関するお問い合わせ先
AIDS 文化フォーラム in 横浜事務局（横浜 YMCA 内）　担当：高村（たかむら）・白井（しらい）
Tel 045-662-3721
横浜 YMCA　広報　担当：池田
Tel 045-662-3721